

第1回 防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略専門会議 議事録等

■開催日時・場所

平成27年5月15日（金）10時00分～12時00分

防府市役所1号館3階南北会議室

■次第

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 会長、副会長選出
4. 議 事
 - (1) 「防府市人口ビジョン」及び「防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定について
 - (2) 今後のスケジュールについて
5. 閉 会

■配布資料

	資料名	番号
1.	防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略専門会議設置要綱	【資料1】
2.	まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局)	【資料2】
3.	「山口県人口ビジョン」策定方針(案)	【資料3-1】
4.	「山口県まち・ひと・しごと創生総合戦略」骨子(案)	【資料3-2】
5.	「防府市人口ビジョン」骨子(案)	【資料4-1】
6.	結婚・出産・子育てに関する市民アンケート調査票 未定稿	【資料4-2】
7.	高校生 進路希望状況調査票 未定稿	【資料4-3】
8.	防府市内の学生 進路希望状況調査票 未定稿	【資料4-4】
9.	「転入」に関する意向調査票	【資料4-5】
10.	「転出」に関する意向調査票	【資料4-6】
11.	「防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略」骨子(案)	【資料5】
12.	「防府市人口ビジョン」及び「防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略」 策定スケジュール(案)	【資料6-1】
13.	「総合計画」基本計画見直し及び「防府市人口ビジョン」 「防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定 推進体制	【資料6-2】

■会議風景



■出席者名簿

敬称略・順不同

	分野	所属団体・役職	名前	出欠
委員	産業	防府商工会議所 会頭	喜多村 誠	欠席
		防府市農業委員会 会長	藤井 伸昌	欠席
		一般社団法人防府市観光協会 理事	鈴木 宏明	欠席
		協和発酵バイオ株式会社 山口事務所長	古谷 将 (代理)田中 洋一	代理 出席
		西日本旅客鉄道株式会社 防府駅長	岡田 裕哉	出席
	行政	防府公共職業安定所 所長	大野 正幸	出席
		山口県民局 局長	金子 大	出席
	教育	山口大学 (大学院技術経営研究科 技術経営専攻) 教授	稲葉 和也	出席
		山口県立大学 (国際文化学部 国際文化学科) 准教授	進藤 優子	出席
		山口短期大学 (児童教育学科) 准教授	手島 史子	出席
		防府商工高校 教諭	黒川 康生	出席
	金融	山口銀行 防府支店長	山根 博明	出席
		東山口信用金庫 本店長	三田 浩士	出席
	労働	連合山口県央地域協議会 委員	山根 浩二 (代理) 古都 昇	代理 出席
	言論	山口放送株式会社 ラジオ局次長	黒瀬 哲成	出席
	住民	特定非営利活動法人 コミュニティ友志会 代表	松永 朋子	出席
防府市PTA連合会 父親母親委員会		細野 美幸	欠席	
防府市自治会連合会 女性理事		石竹 和歌子	出席	
事務局	総合政策部 部長	平生 光雄		
	総合政策部 次長	伊豆 利裕		
	総合政策部 次長	原田 みゆき		
	総合政策部総合政策課 課長	白井 智浩		
	総合政策部総合政策課 課長補佐	齊藤 忍		
	総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室 室長	桑原 明哲		
	総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室 副主幹	持溝 秀昭		
	総合政策部総合政策課企画係 主任	田中 利明		

■議事録

1. 開 会

(事務局より開会の宣言と資料の確認)

2. 松浦正人市長あいさつ

松浦市長

昨年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が公布され、それを受けて全国の都道府県、市町村において「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を作成するようとの指示が出ている。私は全国市長会の副会長を務めている。全国市長会は813の都市で構成されている。今年の2月に「まち・ひと・しごと創生対策特別委員会」を設置し、32都市が幹事市となり、私はその委員長を拝命した。また、内閣官房の地方居住推進国民会議の委員にもなっている。こうしたことから私が「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のキーとしての役割を果たしていかななくてはならないと考えている。また、いち早く中央の情報が入手でき、要望を伝えることもできる。それだけに負荷も大きいですが、実効性のある戦略を打ち出していかななくてはならない。私の思いをお伝えする機会が今後もあるかと思うが、小・中学校を廃校に追い込んではいけません。小・中学校の廃校は地方の崩壊である。市においてはこのコンセプトに立ち、現在、様々な施策を計画立案中であり、新年度で予算対応できるように進めている。この専門会議の委員の皆さまの意見に寄せる期待は高い。それぞれの分野のエキスパートの方であり心強く感じている。皆さまの専門家としての意見を伺いながら防府版の総合戦略ができ上がればと思う。

3. 委員依頼状の交付

(委員の各席上に事前配布しており、これにより依頼状の交付とした)

4. 専門会議の説明

(事務局より「資料1：設置要綱」を説明)

5. 委員紹介

(事務局より「名簿」に基づいて紹介)

6. 会長・副会長の選任

専門会議設置要綱第5条により委員による互選。

大野委員より、山口大学教授の稲葉委員を会長に、山口県立大学准教授の進藤委員を副会長に推薦する発言があり、全会一致で稲葉会長、進藤副会長を承認。

(稲葉会長は会長席に、進藤委員は副会長席にそれぞれ移動)

7. 会長、副会長あいさつ

- 会 長 | 市長のお話を伺い専門部会が重要な役割を担っていることを痛感した。全国に成功事例として発信できるモデルをつくりたい。責任とやりがいがある。専門知識を有する委員の方が集まっているので、アイデアをいただき、良いモデルを全国に発信し、防府市、そして日本を支えていきたい。
- 副 会 長 | 大役をおおせつかり責任を感じている。全国に発信できるモデルをつくりたい。他県から山口県にきて5年目になり、防府について学ぶことも多いと思うが、経済学的な視点でお手伝いできればと思う。皆さんからご意見をいただき、会長を支えながら良いプランを作成したい。
(事務局より議事進行を会長にわたす)
(市長、公務のため退席)
- 会 長 | 防府市はこのような会議を原則、公開としている。本会議においても毎回、公開としたい。また、会議の記録については要旨をホームページで公開する。了承を頂きたい。さらに委員の名簿も公開することになる。

8. 議事

(事務局より資料2、資料3-1、資料3-2を説明)

(事務局より資料4-1、資料4-2、資料4-3、資料4-4、資料4-5、資料4-6、資料5を説明)

- 会 長 | 防府市の人口ビジョンの説明をしていただいた。特に人口減少対策に特化した総合戦略を策定するという趣旨の説明だった。これを受けて、特に資料5の「防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略」骨子案について施策の方向性など、委員の皆さんのご意見を頂きたい。
- A 委 員 | 大学では体育や健康科学を専門にしているが、(自分は)防府市民であり0歳児の子どもがいるので、子育てをしている母親としての立場で意見を述べることができたらと思っている。結婚、出産、子育ての人生設計を考えている若い人たちがいると思うが、社会全体が女性の社会進出を支援していく流れになっている。メディアの影響があって出産できる年齢が45歳でも可能という意識が女性の中であって、仕事を優先させた人生設計を立てている人が多い。人生設計を立てる段階で正しい認識をもってもらうことが重要である。
- B 委 員 | 4つの基本目標、戦略のなかで、雇用創出が一番上位に出てくる。若者の雇用創出が最も重要な課題である。産業界からの要望や意見を反映させる必要がある。
- C 委 員 | 中国四国地方は高齢化率が高い県が多い。高齢化しているので、それにともない総人

口が減っている。労働力人口の減少が総人口の減少よりも早く進んでいる。労働力人口の減少をいかに食い止めるかが重要である。職を求める人が減っている一方、人を求める企業は増えている。雇用が安定しているから職を求める人が減っているのではなく、働き口がない市町ではその市町から若者が出ていくので、職を求める人自体がない。企業誘致も大切だが、既存の企業の労働環境や雇用環境の改善も大事である。また、女性の活躍の場など、防府市としての目玉があれば良いと思う。

D 委員 防府に住んでみたい、行ってみたいと思われるまちづくりが大切である。様々なところから、防府市に来てもらう公共輸送機関として役に立ちたい。諸外国の動向や事象から学んで戦略に活かすことも大切である。

E 委員 協和発酵バイオは防府市に工場を建てて60年以上になる。グループ会社を含めて防府市で700名の従業員が働いている。従業員にとって魅力のあるまちになって欲しいと思う。一部の従業員から東京に比べて防府市は魅力が乏しいという声を聞く。例えば、外国語習得の機会が多く、防府に住めば語学力がアップするなど、特徴のある施策や女性の活躍機会の増加を図るための保育所の充実などを進めるなどの取り組みが必要である。

副会長 県立大学の国際文化学部で語学を学んでも防府にその知識や技能を活かせる企業や職がないため、就職は県外に決めてしまう。新たな雇用の創出が重要である。若者を惹きつける何か、防府市の目玉をつくるべきである。

会長 高校を卒業すると防府市を出ていってしまう。これを食い止めるのが重要である。給与を上げるのは難しいので、この仕事が好きだというのが防府市にあるのか。防府市で結婚し、子育てをしてもらう。防府市での定着が焦点になる。

F 委員 衰退した工業社会をもう一回、復活させようと考えた場合、工業製品の便利さを体感したことがある人はその姿を描きやすい。しかし、工業製品の便利さを知らない人に工業社会を復活させようと言ってもイメージがわからない。今回の地域創生においては、工業製品の便利さを知らない人に工業社会を復活させようと言っているのと同じで、いくら調査を行い検討しても有効的な解決策にはならない。このピントはぼかしてはいけない。地域の活性化は地域の人間が取り組むのが大原則である。生徒たちには地域の活性化に必要なものとして、「人口の増加」と「経済の活性化」の両輪が重要であると教え、実践的な活動を指導してきた。しかし、その成果はほとんど上がらない。ファーストプレイスは家庭、セカンドプレイスは職場もしくは学校であり、この範ちゅうで物事を考え過ぎている。人が生きる上で、現在はサードプレイスにシフトしてきている。すなわち、これまでとは違う第3の居場所に人は生きる望みをもっている。地域創生はこの第3の居場所にアプローチしていない。コンテンツを重視するのではなく、生きている意味や背景が重要である。雇用を増やしても女性が活躍できる環境を整えても、おそらく人が増えることはない。それはなぜか。子どもを生んで育てるといふ人生感が育ってい

ないからだ。工業製品の話と同じで、出産して子育てをする良さを知らない人に、出産や子育てを勧めてもイメージがわからない。私は観光協会の副会長をしている。観光は「幸せます・防府」の路線で「コト」、「モノ」、「ヒト」、「空間」の項目でアプローチして実践していく。その成果をこの会議で報告できたら大変「幸せます」です。

G 委員 資料5の個別の施策を見ると、これ以上、具体的にすることがあるのかなと思った。テレビや雑誌を見てもラジオを聴いても、情報として入ってくるのは東京の話ばかりである。政治の中心は東京であり、メディアも東京に集中している。大手企業の本社も東京であり、明治以降、東京中心の国家づくりが行われてきた。私自身地方の人間でありながら東京の素晴らしさを刷り込まれてきた。地方銀行でありながら東京勤務を10年経験した。地方を活性化する施策を考えるのは重要だが、もう少し東京の魅力を下げ努力もしてもらいたい。逆単身という言葉がある。家族で東京に行き、奥さんと子どもが東京を好きになり東京に残り、主人だけが単身でふるさとに戻ってくるケースであり、これを俗に逆単身と言っている。圧倒的な東京の物質文明にやられてしまい、山口県的生活よりも東京の豊かさを優先してしまう現実がある。これは山口だけでなく広島も福岡も同じである。地方の人間がイニシアティブをもって地方の魅力を創るとか、中央中心ではない仕組みを考える必要がある。年収250万円を超えるか、超えないかで結婚する男性の比率が大きく異なっている。地方の現場では非正規社員が多く、東京はホワイトカラーの正規社員が多いなど、そういう枠組みを日本の国として変えていく気があるのかと思うこともある。東京に集中しているものを是正するよう、要求していくのも我々の役目ではないかと思う。

H 委員 当行においても「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に対応するために専門部署を設置した。地元の金融機関としてどういう貢献ができるのか、智慧を絞っていきたい。地方の良さが見直されてきている。防府に転入された自衛隊の方から、防府の魅力の一つは「気候が温暖で住みやすい」という声を聞いた。防府を基盤に仕事をしてきた私は、防府の魅力に気付いていないのかなと思うこともある。この専門会議で防府の魅力を認識し、発見して活力あるまちにしていきたい。

I 委員 防府市には7千名強の働く仲間がいる。労働者の立場から言えば、雇用の創出が最も重要である。企業誘致活動をしていかななくてはならない。現実には誘致活動を行ってもなかなか企業は来ないが、この難しいことに挑戦していかななくてはならない。既存企業の活性化を支援していくことに加えて、誘致も併せて進めていく必要がある。企業が移転を決断した理由は、「企業誘致奨励の特別措置」よりも「行政担当者の熱心さ」の方が一番に上げられている。交通の利便性など要素はたくさんあるが、行政担当者による的確なアピールなどが重要である。

J 委員 先月19日、山口発として中国四国ブロックのラジオ局8局を結び、「幸せます・方言でまち起こし」という2時間の特別番組を放送した。黒川委員にも出演頂き、防府市の「幸せますブランド」を紹介した。「幸せます」は自分の行動ではなく、相手の行動に対

事務局 | 次回の会議までに必要な資料や質問があれば、総合政策課に連絡を頂きたい。

閉会